

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196500795		
法人名	株式会社ふれあい広場		
事業所名	ふれあい多居夢浦和		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区元町1-32-17		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	平成31年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成31年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年開設し、今年で17年目をむかえます。地域の方々にもホームに対し認識は高くなっており、自治会に加入し地域行事への参加、交流の機会を積極的に設けています。当ホームの理念である「ゆとりある介護」を目指し毎日を楽しみ笑顔で過ごして頂けるよう支援しております。ご家族とのコミュニケーションも大切に安心して大切なご家族を任せただけよう努力しております。各種ボランティアの方々の協力も入居者様の笑顔のもとになっています。季節行事や外出の機会を多くし笑顔溢れるホーム作りをしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・和やかな空間であることを意識して、言葉かけや対話に力が入れられており、来訪者からも高評価をうけている。また利用者それぞれの個性を尊重され、利用者の中に笑顔や安らぎがあることを大切にされることで、利用者の潤いのある暮らしに活かされている。
 ・運営推進会議では、幅広い内容での意見交換が行われ、地域のイベントや研修の情報をいただくことで活動の幅が広がることに繋がり、有意義な会議運営をされている。
 ・目標達成計画については、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保についての課題を設定され、研修の実施が継続出来ていること、カンファレンスで接遇についての話し合いや適切な介助の方法の検討が行われていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあい多居夢浦和の理念「ゆとりある介護」を事務所・事業所玄関に掲示し毎月行なわれるフロア会議や全体会議時などに唱和し意識付け実践している。ケース記録にも入れ常に確認できるようにしている。	「ゆとりのある介護」を大切にしながら、利用者一人ひとりが地域の中で、その人らしく暮らせるように取り組まれている。また、半年ごとにフロア目標が設定され、職員が理念を意識できるように工夫されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、夏祭りや地域ゴミゼロ運動など地域の行事で参加可能なものには積極的に参加し地域交流を図っている。	地域の一員としてゴミゼロ運動や地域の防災訓練に参加することで地域の方々とのふれあう機会を多く持つことができるように支援されている。それによって事業所を知ってもらい、地域に受け入れてもらえる環境づくりに取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで地域の方々よりご家族に向けホームでの様子や認知症ケアの方法を紹介。勉強会を開催し認知症に対しての質問にも極力答えられるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し利用状況や取り組み、入居者様の日常の様子などを報告し各方面から意見をいただきサービス向上に努めている。	定期的開催され、事業所からの報告のほか、参加者から地域の集いの情報提供をうけることやボランティア協力の申し出を受けるともあり、事業所運営に活かされている。	今後も、行政や地域、家族等からの意見を幅広く収集し、サービスの向上に活かしていくために、参加しやすい日程の調整や議題の工夫等に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの職員に運営推進会議に出席していただき、意見交換を行ない協力関係を築いていけるよう努めている。	事故報告や困難事例のアドバイスをうけるなど市の職員との連携がスムーズにとれるように努力をされている為、良い協力関係がつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置しホーム内で起こりうる身体拘束に付き勉強し知識の共有を図っている。出入りに関しては基本自由だがAM11時までは開錠しているが以降は施錠している。ご家族了承済み。	職員全体が身体拘束をしないケアを理解し、取り組むことが出来るように「虐待防止・身体拘束廃止委員会」が年4回実施され、事例ごとの話し合いや研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置しホーム内で起こりうる虐待に付き勉強し知識の共有を図っているが全員が揃って勉強会に参加することは不可能で資料の配布やアンケートなどを行なっている。研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この項目に関してはなかなか学ぶ機会がなくホーム内でも研修の参加や勉強会の開催を作っていきたい。法人内では年一回このテーマで研修を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は本社マネジャー・管理者が重要事項内容について説明を行ない、疑問点や不安な点に詳しく説明し納得いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し面会に来られたご家族にもご意見を頂いている。入居者様にもやりたいこと、行きたい場所などを聞き運営に反映できるよう努めている。	運営推進会議、訪問の際などの対面する機会を利用して意見や要望が伝えやすい環境が提供されている。利用者や家族からの意見は事業所の運営内容を振り返る材料として話し合われることで活用されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年二回ラダーチェックを行ない職員との個人面談なども設けている。普段から職員と会話の機会は多くあるので良い提案があれば極力取り入れるように心掛けている。	職員からの提案は、迅速に運営に反映できるように努められている。職員間でも「いいねカード」を取り入れ、相手を認める・相手に認められる体験を増やすことでコミュニケーションの円滑化が実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社代表者と共に参加している会議内で管理者から現場の声を伝え働きやすい環境を整えるよう努めている。法人で人事考課制度を年二回行ない職員の個々の努力や実績、勤務状況を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修や社協の研修に参加する機会は多く設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会などに参加し、他施設の方々と意見交換の場を設けたり、人事交流を行ない他施設職員に期間限定で勤務していただき、他施設の良いところを取り入れられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを確認し本人の様子や情報を把握し個々の性格などを傾聴から学びそれぞれに合った対応をするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にホームに望むことやご本人様に対する生活について確認し不安なことがあれば傾聴し良い関係作りが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前にご本人、ご家族からお話しをお聞きし必要と思われる支援を提案できるよう努めている。当グループ内の老健や特養についてのご紹介も状況に応じ行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの出来る事への積極的な参加、一緒に過ごすことでのお互いの信頼感を築きよい関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時に日常の様子をお伝えし、「ふれあい便り」を郵送して様子を知っていただけるようにしている。誕生日会やイベントにも参加していただき病院受診などの協力もしていただくようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前関係のあった友人の来訪や親戚の方の来訪などは希望があれば受け入れている。馴染みの場所などへの外出は出来ない。1Fではほぼ毎日来訪されるご主人様も二人居る。	知人や家族、地域のボランティアの方々などが気兼ねなく訪問できる接客マナーが周知徹底されており、訪問者からも「訪れやすい」とのコメントを多くいただいている。以前からの親交を続けていけるように手紙や電話の交流をサポートされるなど、本人の大切にしてきた関係を継続できるように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や行動をみてリビング席の配置も時折変更したり、入居者様同士で楽しく過ごして頂けるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してしまうとその後の関係性は無くなってしまっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成の際に満足度シートを活用しケアプランの見直しを行ない希望や意向に添えるよう努めている。	時間を共有する中での信頼関係を大切に、言葉や表情・仕草などから読み取れることがないかどうか配慮されている。買物の希望や外出の希望、不安な気持ちなど様々な思いを把握できるように本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴シートの活用や日々の会話で情報を収集しケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各フロアにて会議時カンファレンスを行ないより良いケアの方向性を話し合い、毎日の生活記録や申し送りにより現状状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議時ケアプランの見直し対象の入居者様について話し合い、本人・ご家族の要望を取り入れるプラン作成に努めている。	利用者の生活への希望や残された力を引き出すためには、どのように関わっていくべきなのかがフロア会議で話し合われ、計画がより活かされたものとなるようボランティアの関わりも盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を残し情報の共有をし会議時や日常の申し送り、会話の中で介護計画の見直し立案に役立てるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域ボランティアの方々に定期的に来訪いただき外部との交流の機会を設けスタッフのサポート業務を行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生・中学生の受け入れや、地域行事の夏祭りなどに参加。地域包括・民生委員からの情報で参加可能なものには参加し楽しみが持てる生活をしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医に入居者様の情報提供を行ない、状況変化時には連絡・指示をいただき往診時には的確なアドバイスをいただけている。ご家族も可能な方は往診時に立会い一緒にお話を聞いていただいたりしている。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。医療に関する情報の共有や主治医との連携に力が入れられており、適切な医療を受けられるようにサポート体制がつくられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携をとり週一回の訪問の際には、入居者様の状況をお伝えし必要な医療処置を行なっていただいている。スタッフの不安などにも相談に乗っていただけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの介護サマリーを作成し情報提供を行なっている。入院時には病院に足を運び看護師などから情報提供いただき退院の調整を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から終末期の話しは行なえていないが終末期の対応や看取りの話し合いなど、かかりつけ医や訪問看護師も含め方針の共有に努めている。	重度化や終末期の場合にも、出来る限り要望に答えられるように受け入れがされている。家族や主治医との意見交換や情報の共有により、看取りの支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応チャート図を掲示し、緊急時には必要なものがまとまっているバッグを持ち出し対応するようにしている。一部職員の対応力には不安があるが勉強会などで対応力をつけていけるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行なっているが、全職員が参加出来ているわけではないので、不安な職員もいるのではないと思われる。資料などの配布で情報の共有はしているものの実践力となると完璧とは言えない。	年2回の避難訓練では、各自の役割を確認し迅速な行動ができるように訓練されている。地域住民の方々に参加協力の呼びかけが行われているほか、自治会の防災教室にも利用者と参加するなど相互の協力体制づくりが実践されている。	災害発生は予測不可能なことで、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、引き続き地域住民との協力体制を働きかけていかれることや夜間の避難体制の確認など継続的な取り組みに期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場を尊重し誇りやプライバシーを損ねることの無いように心がけているが声かけでは時折厳しい口調や馴れ合い口調がみられている。	利用者の人格を尊重した対応がカンファレンスの場等で話し合われ、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、利用者の気持ちを第一に考えた、きめ細やかな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご本人の希望を聞き、自己決定が出来るような環境作りは出来ている。ご本人様の色々な思いを大切にできるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望に添えるよう過ごしていただく努力はしているが、生活歴やニーズにも違いがあり完璧であるかは難しいところだが、業務よりも入居者様のペースに合わせた支援が出来る様には努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容係りを中心に月に一度訪問美容に来ていただき、必要な方へのサービスの提供や起床時の整髪などは行なっている。また外出時には口紅を塗るなど身だしなみには気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前はホームで食材を購入し一から手作りのものを提供していたが、現在はゼロクックのもので食事提供している為、一緒に調理などはしないが盛り付けや食器拭きなどのお手伝いはして頂いている。	利用者の個々の力に合わせて料理の盛り付けやテーブル拭きなどが職員と共に行われている。また出前の利用や外食などを楽しまれるほか、おやつを一緒につくるなどの工夫もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分摂取量・食事量などは記録しスタッフ間でしっかりと把握している。食事の形態も食べやすい状態、トロミを付けて飲みやすい状態にして提供したり工夫はしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後に口腔ケアを行なっている。しっかり磨けていない方の口腔内の確認や介助が必要な方への口腔ケアも行なえている。また義歯を使用している方は夕食後洗浄剤を使用し衛生的な状態にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄間隔を確認、適時トイレ誘導を行なっている。オムツ使用者には定時の確認以外にも適時オムツ交換をしている。自立に繋がる介護は難しいが出来る事は行なっていたい。	カンファレンスで個々の介護方法が話し合われて実践されている。一人ひとりに応じたケアを提供することにより、精神的にも安定された事例もあり効果をあげられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	センナ茶・乳製品・ファイバーなどお通じが良くなるものは必要時提供している。体も毎日しっかりと動かしていただいている。またどうしてもお通じが見られない際には医師から下剤を頓服として処方されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方に応じて無理のないよう声かけを行ない、入浴剤を使用したり季節を感じていただけよう菖蒲湯やゆず湯などを行ない工夫している。	利用者の個別性が把握され、心地良く入浴してもらえるように脱衣所の温度にも気を配られている。入浴を拒否する理由や背景を考え、2人介助での対応や同性介助など、対応を工夫することで不安を取り除けるように配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて臥床を促したりフロアに設置してあるソファで休息していただいたりしている。日中は極力活動的に過ごしてもらうよう運動やレクを取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をすぐに確認できるよう専用のファイルにまとめ情報の共有をしている。内科医の往診の際に薬の相談をし状態に応じ対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や外出の時間、レクの時間、また個人の趣味の時間を設け気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には外気浴や散歩を多く取り入れホームの車でドライブに出かけたり、ご家族が来訪し外出の機会を作るよう支援している。	日常的な外出支援により、季節の移り変わりを感じ、気分転換が図れるように配慮されている。利用者の希望が聴き取られ、外食や買い物などの外出が企画されている。庭のベンチでの外気浴も好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは基本入居者様がお金を所持せずスタッフ同行の買い物の際にお支払をして頂くなどはしている。一部入居者様にはご家族の了承を頂き月1000円までの自由な買い物にはご理解いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族への電話をかけたりの対応は行っている。正月にホームにくる年賀状などはご本人様にお渡しさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れたフロア作りを行なっている。温度や湿度にも気を配り快適に過ごしていただけるよう工夫している。	清潔感が感じられる共用空間を意識し、季節感のある装飾が工夫されている。利用者の目線と考えられ、その方がくつろげる場所であるように、家庭的な雰囲気大切にされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに三人掛けのソファを用意し気の合う入居者様同士で過ごしていただく、一人でのんびり過ごしていただくなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前使用していた馴染みのある物を持参していただき、居室で使用してもらっている。昔のお写真やご家族の写真なども飾り心地よい空間になるよう配慮している。	利用者それぞれが大切にしている物や家具を持ち込んでもらい自分らしい落ち着いた居室となるようにアドバイスされている。また利用者の作品や思いでの写真を飾るなど好みを反映できるように本人や家族と相談しながら支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の居室の場所やトイレの場所は分かるように表示したり、出来る、出来ないの部分はスタッフが把握して出来ない部分の介入をしている。		

(別紙4(2))

事業所名: ふれあい多居夢浦和

目標達成計画

作成日: 平成 31 年 4 月 26 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・地域の方の参加が今年度できず、災害対策を地域の方と連携し行っていきたい。 ・夜間時の災害対策を不安なものにしたい。	・年に一度は近隣の方も招き、災害対策を行っていきたい。 ・夜間災害対策を万全なものにする。	・今以上に近隣の方々との関係を密なものにし、協力体制を確立していく。 ・本部災害対策部門の方に来ていただき学ぶ。個人の災害時の対応力をあげていく。	12ヶ月
2	4	家族の方の参加が、会議を平日に行っていることもあり、難しい状況である。	他県にお住まいのご家族以外は、年に一度くらいは運営推進会議に出席していただきたい。	祝日に行う敬老会等の後にお時間をいただき、イベント企画にご家族に参加をしてもらうようお願いする。 イベントプラス会議のような形づくりをする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。